

分水嶺ニ於テハ赤松ト接觸混生ス同氏ハ之ヲ *P. sinensis* ナリト主張スレドモ *P. sinensis* ノ毬果ハ其鱗片先端凹メルモ本種ハ突起シ且著シキ刺アリ又 *P. sinensis* ノ葉ハ多クハ三葉ナレドモ本種ハ二葉ノミナル等ハ最モ著シキ區別點ナリ (未完)

## ○花 木 蒙 求 (承前)

本題ノ著者松田定久君ハ不幸ニシテ喉内ニ病ヲ得大正十年一月十六日ニ易質セラレタ故ニ本稿ハ是レ以後本誌ニ顯ハレナイコトニナツタコトヲ悲ミマス

故 松 田 定 久

### (送) 玫瑰笑刺 茉莉清夢

「名花交叢」玫瑰ニ笑刺道人ノ稱アリ、「錦字箋」尹旋津ノ詞ニ凄凉夜。簾席杳杳。詩魂真化風蝶。冷香清到骨。夢十里。梅花雪。

### ●迎春經雪 欸冬鑽凍

「花曆百詠」迎春放

ノ詩ニ三陽初轉一枝開。迓得東風草未胎。出色曾經窓下雪。含香不亞嶺頭梅。黃裳早合稱元吉。青帝休教落異才。寂比群芳名實稱。尤宜喚作百花魁。」「羣芳譜、藥譜」本草綱目ニ欸冬ノ一名ハ欸凍、一名ハ抵冬、一名ハ鑽凍、李時珍曰ク冬、氷下ニ生ズ故ニ顯凍ト名ク後人訛テ欸冬ト爲ス欸ハ至ナリ冬ニ至テ花サクナリ寇宗奭曰ク百草中惟此レハ氷雪ヲ顧ミズ最モ春ニ先ンズルナリ故ニ世ニ此ヲ鑽凍ト謂フ

### ●樟花充蔬 柰葉裹粽

「康熙字典」孝子傳ニ尹伯奇、樟花ヲ采リ以テ食ト爲ス註ニ樟花ハ即棠梨花ナリ春開ク采リテ曝シ乾カス之ヲ瀾レバ蔬ニ充ツベシ、「植物名實圖考、山草類」柰葉ハ粵東ノ家園ニ産ス草本、形ハ芭蕉ノ如シ葉ハ粽ヲ裹ム可シ以テ參茸等ノ物ヲ包メバ久ヲ經テ壞レズ本ノ高サ約二三尺葉ノ長サ尺許青色ニシテ四季凋マズ南越筆記ニ柰葉トイフ者アリ狀ハ芭蕉ノ如ク葉濕フ時以テ角黍ヲ包ミ乾ケバ以テ物ヲ包直シ缸口ヲ封ス蓋、南方地熱シ物腐敗シ易シ惟柰葉ニテ之ヲ藏スレバ久ヲ持ス可シ即土ニ入ル千年壞レズ柱礎ノ上柰葉ヲ以テ之ヲ墊レバ能濕潤ヲ隔ツ亦能象牙ヲ理メ光澤アラシム計ルニ粵中、葉ノ用ヲ爲スハ柰ヲ多トス廣州竹枝詞ニ云フ五月街頭人賣葉。卷成片片似芭蕉。柰葉ヲ謂フ

### ●文杏爲梁

古柏作棟

「韻府、杏梁」長門賦ニ刻木蘭以爲榱

兮。飾文杏以爲梁。南部烟花記ニ隋ノ文帝、蔡容華ノ爲ニ瀟湘綠綺牕ヲ作クル上ニ黃金芙蓉花ヲ飾ル瑠璃網戸、文杏ヲ梁ト爲ス飛走動植ヲ彫刻ス値千金、「杜詩、古柏行」大厦如傾要梁棟。萬牛廻首丘山重。註ニ耿恭、岑彭ニ謂テ曰ク方今漢基頽圯シ英雄寒餓ス大厦ノ傾クガ如シ天下ノ義士ヲ求メテ梁棟ト爲スヲ要ス子、何ゾ此ノ如ク寒餓ス時ニ乗ジテ萬戸侯ヲ取ラザレバ何レノ時ヲ候タンヤ梁武帝ノ詩ニ出家爲上首。入仕作梁棟。

## ○摘芳拾藥錄 (其二)

牧野 富太郎

### ●尼入山食舞藟語

(源隆國撰、井澤長秀考訂『今昔物語』後部卷二十八)

今はむかし。京にありける木伐人ども。北山にゆくとして。道をふみたがへて。四五人ばかり山中をさまよいけるに。山の奥の方より。人の來るをとすあやしや何者の來るにやとおもふ所に。尼四五人ばかり舞をなして出來たり。木伐人どもこれを見て。これはよも人にはあらじ。天狗にや鬼神にやと怖れ居たるに。此尼ども木伐人どもを見つけて。より來れば。木伐人どもおそろしながら。是はいかなる尼君達の。深き山の奥より。かくは舞出たまふぞと問ければ。尼ども答て。我等かく舞來るをば。そこたちは定めておそろしと思ふらん。たゞし我等そこにある尼どもなり。花をつみて佛に奉らんとて山に入つるが。道をふみたがへて。出べきやうなかりしに。うるはしき藟のあるをみて。物のほしさにこれを取て。くはんとせしが。くひて酔もやせんとも思ひしぬれども。飢て死んよりはとて焼てくひつるに。きはめて甘かりければよき事なりとおもひて。多くくひしに。たゞかくこゝろならず舞るゝなり。心にもいとあやしき事とは思へども。やめられずといひける。木伐人どもあやしきおもひながら。物のほしかりければ。尼どもが食殘したる藟を取てくらふに。心ならず舞けり。其後は尼どもゝ木伐人どもゝ。たがひに舞つてわらひけり。かくてしばらくありて。酔のさめたるや